

自立活動学習指導案

難聴通級指導教室（たいよう教室）1人（6年男子1人）

指導者 清藤大嗣

- 1 活動名 場に合わせた言い方（人間関係の形成：コミュニケーション）
- 2 活動の目標

- 言葉には、相手の立場や周りの状況に合わせた使い方があることを理解し、大切なポイント（「言葉の使い分け」、「声の大きさ」）に気を付けて、コミュニケーションを図ることができる。
- 日常における課題場面において、役割演技等を通して、場に合わせた言い方を考え、実際に使うことができる。
- 場に合わせた言い方を様々な場面で使うことで、適切なコミュニケーションの大切さやよさを感じることができる。

3 活動について

(1) 活動設定の理由

対象となる子どもは、2年時から補聴器を装用し、主に口話によりコミュニケーションを図っている。補聴器装用時の聞こえも比較的良いことから、日常的な会話のレベルであれば、相手の話がある程度聞き取ることができる。話すことに関しては、積極的に自分の気持ちや考えを伝えようとするが、敬語や敬意表現についての知識が十分に身に付いていないため、目上の人に対する丁寧な言葉遣いができないことがある。また、場面によっては、声が小さくなり、聞き取りづらいこともある。これまでも、在籍校での国語科の授業や通級指導の中で敬語について学習してきており、尊敬語、謙譲語、丁寧語についての知識を身に付けてきている。また、言葉遣いにおいて、相手や場面に配慮して使い分ける敬意表現については、学校で学ぶ機会は少なく、繰り返し学ぶ機会が必要だと考える。さらに、進学、就職など対象児の今後の生活のことを見据えると、このような敬語や敬意表現を身に付けることは、豊かな生活を送る上でも大切なことだと考える。

そこで、本活動では、言葉には同じ内容を伝える際にも様々な表現方法があり、相手の立場や周りの状況に合わせた使い方があることを理解することができるようにする。また、日常に起こる課題場面を取り上げて、役割演技等をしてしながら疑似体験をすることで、場に合わせた言い方を考え、実際に使うことができるようにする。さらに、学習してきた言い方を普段関わりのない人にも実際に使う場面を設定することで、相手に自分の思いを伝えることができたことを実感し、適切なコミュニケーションの大切さやよさを感じることができるようにする。

指導に当たっては、まず、ある場面の会話の様子を見ながら、相手の立場や周りの状況に合わせた言い方ができているかどうかを考えることで、同じ内容を伝える際にも、場に合わせた言い方を変える必要があることに気付くことができるようにする。その際、これまでに学習した敬語について振り返るとともに、「ちょっと、いいですか。」、「すみませんが…」などの敬意表現についても気付くことができるようにする。なお、敬意表現について、学習活動の際は、「思いやり語」と提示することで、言葉の使い方へのイメージをもたせることができるようにする。さらに、場に合わせた言い方をするときの大切なポイントを「言葉の使い分け」、「声の大きさ」とすることで、活動を通して個人のめあて（「今日頑張ること」）に対する見通しをもつことができるようにする。次に、役割演技や言葉を使うゲームを通して、敬語や敬意表現を実際に体験する場を設定する。設定場面は、「報告」、「謝罪」、「許可・依頼」の3点とし、日常生活に起こり得る場面を想定し、対象児が実際に遭遇すると思われる事柄にする。役割演技や言葉を使うゲームでは、絵辞典を使ったり、教師と話をしながら対象児が知っている言葉を引き出したりすることで、対象児が場に合わせた言い方を判断し、主体的に学習を進めることができるようにする。そして、活動の終末では、学校外に出て、実際に店員とのやり取りをするなどの場を設け、初対面の相手や公の場においても場に合わせた言い方を体験的に考えさせることで、適切なコミュニケーションの大切さやよさを感じることができるようにする。

このような学習を通して、対象児が、実際の場面に応じた適切な表現を考え、コミュニケーションを図ろうとする意欲をもつことができると考える。また、自己の変容を実感できたり、自分の思いを他者に伝えられたという達成感を味わったりすることで、自己肯定感を高めることができると考える。さらに、今後、多くの人と関わりをもつ中で、よりよい人間関係を築き、生活を更に豊かにしていくことにつながると考える。

(2) 子どもの実態

教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場や周りの状況に合わせた言葉遣いができること。 使える語彙や表現方法を増やすことで、適切なコミュニケーションを図ることができること。 	
環境の把握 (聴力)	右	左
	裸耳 57 dB 補聴器装用時 30 dB	裸耳 56 dB 補聴器装用時 30 dB
人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> 誰にでも自分から進んで話し掛けることができ、特に、自分より年下の子と関わることを好むことが多い。また、相手の立場を考えていない言動が見られることがある。 	
身体の動き	<ul style="list-style-type: none"> 発音については、ほぼ聞き取ることができる。時々、ラ行の発音に歪みがあったり、声が小さくなったりすることがある。 	
コミュニケーション	言語の受容と表出 (傾聴態度)	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取れなかった内容や理解できなかった内容を、相手に聞き返さず、そのままにしていることがある。しかし、これまでの学習の成果から、もう一度言ってほしいという反応を少しずつ返すことができるようになってきている。
	言語の形成	<ul style="list-style-type: none"> 生活語彙については、ほぼ身に付けているが、抽象的な言葉や日頃使わない言葉は意味を理解していないものもある。 思い浮かんだ順に、表現してしまうなど、話したり書いたりする際、伝えたい内容について整理することが苦手である。 丁寧語については、話したり書いたりすることができる。しかし、尊敬語と謙譲語については、区別が付かず、間違っ覚えていて言葉もある。
行動観察から (認知の特性)	<ul style="list-style-type: none"> 興味・関心をもっていることや分からないことなどを本やインターネットを使って進んで調べることができる。 難聴のために、聞いたことを正確に書いたり理解したりすることに多少の困難さがあるが、視覚的なものを提示したり、丁寧に説明したりすることで、十分理解することができる。 	

4 指導に当たって

(1) 「自分事の問い」をもつための手立ての充実【研究内容1】

- 個別の教育支援計画や保護者や在籍校担任によるチェックリストを活用することで、子どもの実態を把握し、実態に応じた「自分事の問い」を想定することができるようにする。
- 「できたかなカード」(自己評価カード)には、活動を通して意識させたい大切なポイントを明記し、子どもがそれを基に個人のめあて(「今日頑張ること」)を設定することができるようにする。また、活動終了時にできたかどうかを記録することで、できたことやできるようになったことを確認し、次時の個人のめあてを設定することができるようにする。
- 評価資料を作成することで、教師の手立てや子どもの学習状況を振り返り、次時の「自分事の問い」につながる個人のめあてを設定することができるようにする。

(2) 「自分事の問い」の解決につながる「学び合い」の設定【研究内容2】

- 「学び合い」の目的と視点を明確にするとともに、場に合わせた言い方を「考える場」の時間を十分確保することで、思考を促し、主体的な活動につなげることができるようにする。また、「伝え合う場」と「認め合う場」は教師と一緒に活動し、場に合わせた言い方に対する意見や感想を伝え合うことで、個人のめあて(「今日頑張ること」)を意識することができるようにする。

(3) 自己の変容を実感できる自己評価の在り方【研究内容3】

- 活動を通して「できたかなカード」に自己評価することで、個人のめあて(「今日頑張ること」)の達成やこれまでの成果を実感することができるようにする。また、保護者や在籍校担任からも、頑張りを称賛してもらうことで、自信をもって活動することができるようにする。

5 指導計画（総時数 6 時間）

次	時間	指導のねらいと主な活動内容	子どもの意識
一 次	1	「場に合わせた言い方のポイントを知ろう。」 【指導のねらい】 同じ内容を伝えるときも、相手の立場や周りの状況に合わせた言い方があることを知る。 【活動内容】 1 ある場面の会話の様子を見て、気になるところやよりよい言い方について考える。 2 場に合わせた言い方をするときの大切なポイントを知る。 ・ 言葉の使い分け（敬語や「思いやり語」を使う。） ・ 声の大きさ（場所や状況に合わせて） 3 他の場面についても考える。	場に合わせた言い方はどっちかな。 同じ内容を伝えるときでも、いろいろな言い方があるんだな。 大切なポイントに気を付けて言えるといいな。
		『「思いやり語」とはどんな言葉だろう。』 【指導のねらい】 「思いやり語」とはどんな言葉かを知り、言葉の意味や使い方を知ることができる。 【活動内容】 1 これまでに学習した敬語を振り返る。 2 「思いやり語」について知る。 3 「思いやり語」を使うと相手がどんな気持ちになるか考える。	どんな敬語があったかな。 「思いやり語」を使うと、より場に合わせた言い方ができそうだ。
二 次	3 (本時3/3)	「場に合わせた言い方ゲームに挑戦しよう。」 【指導のねらい】 教師との役割演技を通して、場に合わせた言葉を使うことができる。 【活動内容】 1 場面を把握する。 2 「今日頑張ること」を決める。 3 どんな言葉が使えるそうか考える。 4 教師と役割演技をする。 5 言葉を使うゲームをする。 〈設定場面〉 第1時 報告（例：伝言を伝えるとき） 第2時 謝罪（例：忘れ物をしたとき） 第3時 許可・依頼（例：物を借りるとき）	この場面では何と言えばいいかな。 「〇〇」という言葉を使えば、相手に気持ちよく伝わりそうだ。 ゲームの中でも正しい言葉遣いができるかな。
		「〇〇のときでも使えるかな。」 【指導のねらい】 これまでに学習したことを振り返り、場に合わせた言葉が使えたことへのよさを味わうことができる。 【活動内容】 1 これまでに学習した言い方を振り返る。 2 実際に使ってみる。（校長先生への許可、店員への依頼・お礼など） 3 活動の振り返りをする。	これまでの学習を思い出しながら課題にチャレンジするぞ。 これからは場に合わせた言葉遣いをもっとできるといいな。

家庭や在籍学級との連携

目 標
<p>【家 庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習した言葉を使って家族に話をするができる。 ○ 日常生活において、場に合わせた言葉を注意深く聞いたたり調べたりすることができる。 <p>【在籍学級】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習した言葉を使って在籍学級の友達や先生に話をするができる。 ○ 学校生活において、場に合わせた言葉を注意深く聞いたたり調べたりすることができる。

連 携
<p>【家 庭】</p> <p>第2週以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「使える言葉のメモ帳」に、自分で調べた言葉が増えたときは称賛してもらう。 <p>【在籍学級】</p> <p>第2週以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「使える言葉のメモ帳」の言葉が使えたときには称賛してもらう。

6 本 時 (5 / 6)

(1) 目 標

- 何かをお願いする (許可・依頼) 場面について、場に合わせた言い方を考え、使うことができる。
- 言葉遊びのゲームを通して、敬語や「思いやり語」が使えるようになる。

(2) 展 開 ○ 数字は「自分の事の間い」に対するしかけ (①教材・教具 ②発問 ③場 ④連携) ☆はICT活用の留意点

過程 (分)	主 な 学 習 活 動	子 ど も に 応 じ た 具 体 的 な 手 立 て
1	<p>前時の学習について振り返る。</p> <p>場に合わせた言い方をするときの大切なポイントを 確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の使い分け ・ 声の大きさ <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 本時のめあてについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>何かをお願いする言い方を知り、使えるようになろう。</p> </div> <p>(2) めあてを声に出して読む。</p>	<p>④ 連絡ノートや「使える言葉のメモ帳」を確認し、家庭や在籍校で書き留めた言葉が増えていることを称賛することで、本時の活動への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>① 題材マップを提示することで、これまでの学習を想起したり、題材を通しての目標を確認したりすることができるようにする。</p> <p>① 場に合わせた言い方をするときの大切なポイントを絵カードで常時掲示しておくことで、常に意識できるようにする。</p> <p>① ☆ 本時で学習する場面をプレゼンテーションソフトで提示することで、本時の設定場面を把握することができるようにする。</p> <p>② 「物を借りたいときには、いつも何と言っていますか。」と発問することで、これまでの自分の言い方を振り返ることができるようにする。また、「大切なポイントに気を付けて、場に合わせた言い方ができるかな。」と発問することで、本時のめあてへの意識を高めたりすることができるようにする。</p>
2	<p>4 活動の流れを確認する。</p> <p>5 許可・依頼の場面について場に合わせた言い方を考える。</p> <p>え。</p> <p>(1) どんな言い方をすればよいかを考える。</p> <p>(2) 教師と役割演技をする。</p> <p>(3) 場に合わせた言い方になっているか確認する。【学び合い】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「思いやり語」を上手に「今の言い方は、場に合った言い方使えていたよ。お願いされなくても気持ちが良かったよ。」 「良かったかな。」</p> </div> <p>6 「場に合わせた言い方野球ゲーム」をする。</p> <p>(1) ゲームの仕方を確認する。ゲームの中でも場に合わせた言い方が、できるかな。</p> <p>(2) ゲームをする。</p>	<p>① ☆ 役割演技では、小道具等を用いて設定場面を明確にし、大人に対して話すことを伝えることで、場の状況と相手を意識しながら話ができるようにする。</p> <p>○ ゲームのルールを子どもに復唱させることで、教師の話聞くことができているか確認することができるようにする。</p> <p>① ☆ タブレットPCを用いてゲームの様子を記録し、使うことができたら言葉を見覚化することで、振り返りの際に活用することができるようにする。</p> <p>④ 本時で学習した言い方を「使える言葉のメモ帳」に書き、在籍校や家庭でも言葉を使ったり、周りの人の話をよく聞いたりするように促すことで、場に合わせた言い方を日常生活でも生かそうとする意欲を高めることができるようにする。</p> <p>② 次時の学習では、「山下小の先生やお店の人にも、これまでに学習した言い方ができるかな。」と発問することで、次時への意欲につなぐことができるようにする。</p>
3	<p>7 本時を振り返り、活動の反省や自分ができようになったことを発表する。【自己評価】</p> <p>8 次時の内容を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>他の人にも、場に合わせた言い方ができるかな。</p> </div>	<p>① ☆ タブレットPCを用いてゲームの様子を記録し、使うことができたら言葉を見覚化することで、振り返りの際に活用することができるようにする。</p> <p>④ 本時で学習した言い方を「使える言葉のメモ帳」に書き、在籍校や家庭でも言葉を使ったり、周りの人の話をよく聞いたりするように促すことで、場に合わせた言い方を日常生活でも生かそうとする意欲を高めることができるようにする。</p> <p>② 次時の学習では、「山下小の先生やお店の人にも、これまでに学習した言い方ができるかな。」と発問することで、次時への意欲につなぐことができるようにする。</p>

